

情報科学部

I 2012 年度認証評価 努力課題課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

II 2015 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2015 年度大学評価結果総評】

情報科学部は理念・目的に「技術基盤を確立した人材の育成」を掲げており、その一環として 2015 年度より新しいコース制を導入した。それぞれのコースに必修・選択必修科目を設けて、修得の積み上げによって体系的な技術基盤を築こうとする試みである。大変優れた取り組みであり、今後は安定軌道に載せるための努力を続けていただきたい。FD 活動としてはグループワーク講義模擬授業の全教員による体験、担当科目 1 科目のビデオ撮影およびその内外評価のフィードバックを実施しており、高く評価できる。この他にも、学習から学生生活までをサポートするガラスボックスオフィスアワーセンターの運営、キャリアデザイン・学習計画・学生生活を一括管理するポートフォリオの導入、個々の学生と担当教員がポートフォリオを通じてキャリア形成にあたる仕組みの導入、情報科学部用各種サーバーなどを管理する有志学生チーム RAT を通じた自主性とチームワークの養成など、多岐に渡った独自の取り組みが精力的になされており、今後も継続していただきたい。

改善すべき事項等については以下の通りである：

- ・履修ガイド P. 30 の「(6)「前提科目について☆2015 年度入学者」および P. 45 の「(11)再履修クラスについて」より、前提科目で評価 C を受けた学生は在学期間中にその上位科目の履修機会を失う、と解釈できる。これが事実ならば改善すべきであるし、そうでないならばその旨を履修ガイドに明記すべきである。
- ・履修ガイドにおいて参照ページ番号の誤りが多々見られるので、訂正する必要がある。例えば、P. 11 の項目「前提科目について」中の 3 行目（[誤]P. 29→[正]P. 30）。
- ・「コースマップのコース」と「コース制のコース」は同一のものを指しているとは思えないので、名称変更するなどの改善が望まれる。
- ・履修モデルとコースマップあるいは（コース制の）コースとの対応付けが困難に思えるので、改善が望まれる。
- ・質保証委員会の学部における役割とその活動についての詳細な記述が望まれる。

【2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400 字程度まで）

改善点等について、下記に回答する。

- ・前提科目と再履修クラスについては、前提科目で評価 C を受けた学生は、履修ガイド p. 16 の「(3)科目の「学び直し」制度について」の項目で、「通常の科目は一旦合格したら再履修することはできませんが、科目の「学び直し」制度は、指定した一部の科目について「C評価で合格した場合に再履修を認めるものです。」と記載している。この学び直し制度により、上位科目の履修機会を得る事ができる。
- ・履修ガイドのページ番号誤りについては、昨年度のカリキュラム改正による大幅な書き直しにより、生じた。教職員によるチェック体制を引くと共に、学生向け新年度ガイダンスにおいて、説明プレゼン資料と、履修ガイドのページ対応を学生に提示しており、学生の不利益とならないよう配慮している。次年度も、履修ガイドの質管理に注力する。
- ・コース制の移行期間に伴い、旧コースとの用語の重複が生じた。今後、コース制に統一する。新カリキュラムの学生については、本年度、新たに、コース制に沿ったカリキュラムマップを学生に配布している。以後、このカリキュラムマップを中心に学生の指導を進める。
- ・履修モデルとコース制については、新年度ガイダンス時に、各コースの推奨時間割を学生に提供することで、学生の速やかな履修につながるよう配慮している。
- ・質保証委員会については、2016 年 4 月 22 日の教授会において再定義し、計画と執行・報告を行う学部執行部(学部長・教授会主任・副主任)と、点検・評価を行う質保証委員会(CS/DM 学科主任+担当教員)を分離し、PDCA サイクルの円滑な運営体制を構築した。

III 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教員像および教員組織の編制方針】（2011 年度自己点検・評価報告書より）

大学の建学の精神「自由と進歩」に対する自覚に基づき、情報科学部の教育の理念・目的を正確に認識した上で教育に当たることが要請される。とりわけ、情報技術の専門家に必要となるコンピュータ科学についての知識を確実に養いつつ、進展の著しい情報技術分野において陳腐化しない技術基盤を修得するために、どのようなカリキュラム編成が適切であるか、また、どのような教育内容が適切であるかといった点を常に意識しながら教育を行なうことが求められる。

教員組織の編制においては、学部の教育理念・目的に基づき、多様かつ変化の速い情報科学分野への追従にも配慮しながら、学生に対して責任ある教育を行なうことのできる専任教員を中心に教員組織を構成する。専任教員の採用に当たっては、人事選考委員会および人事委員会により公正かつ適切な方法で行なうことができる体制を整備する。

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・情報専門科目教員資格についてのガイドライン
- ・英語教員資格についてのガイドライン（2016年度に、改訂中）
- ・自然科学教員資格についてのガイドライン

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・学部執行部：学部長、教授会主任、教授会副主任：学部活動の計画と執行
- ・主任会議：学部執行部、研究科長、CS/DM 学科主任：学部活動の集約と調整。原則月 2 回開催
- ・教授会：全教員で原則月 2 回開催
- ・人事委員会：教員採用の資格検査
- ・人事選考委員会：教員採用活動の執行を付託し、採用人事の候補者決定
- ・カリキュラム改革委員：学部教育の基本カリキュラム案の策定

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・学部執行部：情報科学部教授会規程
- ・教授会：情報科学部教授会規程
- ・人事委員会：内規「情報科学部人事委員会細則」
- ・人事選考委員会：内規「情報科学部人事選考委員会細則」

③教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで)※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

学部と大学院の教授会は、構成員が 90%重なり、原則同日に開催している。連携が必要な議題は、両者で効率的に議論が行われ、実施に移されている。また、主任会議を、学部執行部、CS/DM 学科主任、研究科長で構成し、原則月 2 回開催している。主任会議の場で、学部と大学院の教授会における共通課題の審議事項を事前に確認して、重複議論にならないよう、教授会進行手順を定めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2016 年度教授会開催日程
<https://cis.k.hosei.ac.jp/faculty/wiki.cgi?page=308Meeting20160408&file=2016%20AF%20D9%B6%B5%BC%20F8%B2%F1%20FC%20C4%20F8%202820160304%2029%20Epdf&action=ATTACH>

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(～400 字程度まで) ※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。

教員像については採用にあたり、情報専門科目教員資格についてのガイドラインに従い、適切な資質を持った専門科目教員を採用している。また、教員募集前に、学部懇談会を開き、募集領域の研究・教育分野の適切性を議論している。この結果、カリキュラムと整合性が高く、バランスの保たれた教員組織となっている。外部に向け「理系学部研究室ガイド」の p4-5 に、研究領域と教員のマトリクスを示して公開している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・情報専門科目教員資格についてのガイドライン
- ・理系学部研究室ガイド <http://cis.k.hosei.ac.jp/news/2015070301.html>

2015 年度専任教員数一覧

(2015 年 5 月 1 日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
コンピュータ	12	0	0	0	12	8	4
デジタル メディア	12	0	0	0	12	8	4
学部計	24	0	0	0	24	16	8

専任教員 1 人あたりの学生数 (2015 年 5 月 1 日現在) : 27.3 人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】 (~200 字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

教員採用にあたり、現在の学部教員の年齢構成を考慮し、できるだけ同年齢が重ならず、かつ、若い教員を採用することを配慮している。結果として、年齢構成が高年齢化しない教員構成を維持できている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

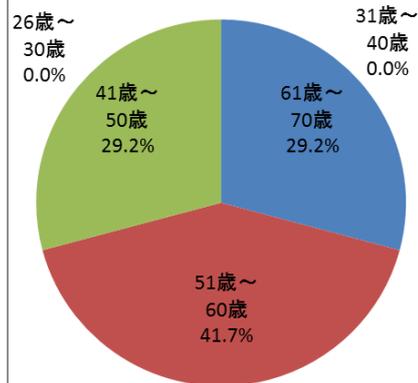
・下記の年齢構成一覧参照

年齢構成一覧

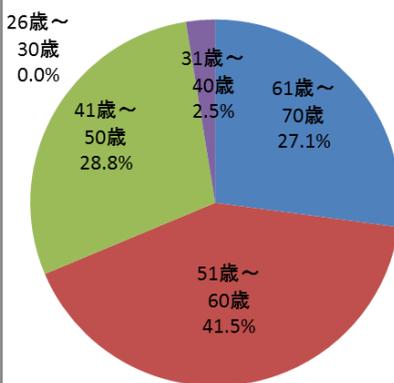
(2015 年 5 月 1 日現在)

年度\年齢	26～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳
2015	0 人	0 人	7 人	10 人	7 人
	0.0%	0.0%	29.2%	41.7%	29.2%

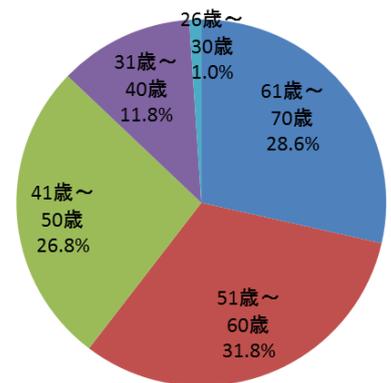
年齢構成比
(2015年度情報科学部)



年齢構成比
(情報科学部過去5年平均)



年齢構成比
(過去5年全学部平均)



1.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・情報専門科目教員資格についてのガイドライン
- ・英語教員資格についてのガイドライン (2016 年度に、改訂中)
- ・自然科学教員資格についてのガイドライン
- ・情報科学部教授および准教授等資格内規
- ・情報科学部人事委員会細則
- ・情報科学部人事選考委員会細則
- ・紹鴎科学部教員資格審査内規

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】 ※箇条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等 (非公開) を添付することでも可。

- ・募集については、上記根拠資料の通り、人事選考委員会と人事委員会を独立に組織して、選考と資格審査(法令および人事規程に合致するか判定))を進めている。
- ・昇格については、上記根拠資料の通り、教授資格のための条件を明記し、運用している。

1.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

A B C

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・大学院講義である「オープンセミナー」は、教員の研究テーマについて交流する場として、全教員のプレゼンテーションを2年間で1周回の形式で行っている。原則、全教員の参加が求められる。
- ・全ての講義に対して、自由に授業参観を行えるルールを制定し、特に、複数教員による同一講義の他学科開講授業を中心に、講義方法の共有を図っている。

【2015年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・オープンセミナー（春学期の隔週金曜3限、教員の研究活動の発表、原則的に教員全員参加）
- ・プログラミング1(C/C++)（秋学期の全講義日程を通じて、授業参観実施）
- ・情報検索（秋学期金1限、複数教員による講義のため、相互に授業参観）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・情報科学オープンセミナー <https://cis.k.hosei.ac.jp/gs/course/master/openseminar.html>

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・今後数年にわたり、毎年、定年退職に伴う教員採用人事を行う必要があり、将来ビジョンに基づき、変革に対応できる教員採用ガイドラインの見直しを進める。

【この基準の大学評価】

情報科学部では教員種別ごとに3種類（専門・英語・自然科学）のガイドラインを設定して教員に求める能力・資質等を明文化しており、評価できる。また、期待に基づき対応する組織が設置され、役割・責任体制が整い、各種組織の役割分担が明確であり、評価できる。学部と大学院の教授会構成員の9割が一致しており、連携が考慮されている。

教員組織については、変化の速い情報科学分野への適応が考慮され、学位授与方針およびカリキュラムに対して適切である。教員の年齢構成は偏りがなく適切である。

教員の採用・昇格の基準については、情報科学部が定める人事規程に定められており、これにもとづいた採用や昇格への対応は適切である。

FD活動も適切に行われている。

2 教育課程・教育内容

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教育課程の編成・実施方針】

情報科学・技術の進歩は激しいため、学問体系として変化の少ない基盤部分と技術の進歩に応じて急激に変化する部分とを分けて編成する。情報科学の分野における国際・国内学会では、数年ごとに情報科学分野で授与すべき知識の体系について見直しが行われているが、基盤部分はこうした知識体系に準拠したカリキュラムとする。知識体系の最先端部分は各教員の研究内容と位置づけることで、プロジェクト形式の教育を行う。特に変化の激しい部分である新しいプログラミング言語の習得などは、学生の希望を取り入れつつダイナミックに編成されるべきで、たとえば長期休暇中の集中講義形式での実現を目指す。より具体的には、

1. 入学経路の多様化に対応したリメディアル教育の充実
2. 導入科目によるコミュニケーション力（文章構成力）教育の実施
3. 徹底したプログラミング教育の実施

<p>4. 少人数教育で充実した内容の英語教育の実施</p> <p>5. ミニプロジェクト方式による実践的な教育の実施</p> <p>6. 情報科学プロジェクトや卒業研究における問題発掘・解決型教育の充実</p> <p>7. アドバイザー制度によるきめ細かな教育指導の実施</p> <p>を推進する。なお、専門科目の一部については、英語での授業を実施する。</p>	
<p>2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>	
<p>①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。</p>	<p><input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p>
<p>(～400 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修への配慮が行われているか概要を記入。</p> <p>ACM や情報処理学会の標準カリキュラムによりコアカリキュラムを設計し、情報科学分野の最新の動向に対応した改訂を3年から4年ごとに行っている。2015 年度新入生から情報科学分野の知識体系をより取り入れた新カリキュラムを採用し、年次進行的に 新授業科目を開講している。順次的・体系的な履修を明確にするように、コース制に沿って、コンピュータ基礎、情報システム、メディア科学の各コースのカリキュラムマップを作成し、新年度ガイダンスにて、学生に説明した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016 年度 2 年生ガイダンス資料 (コース制カリキュラムマップ) https://cis.k.hosei.ac.jp/faculty/wiki.cgi?page=2016%BD%D5%B4%FC%A5%AC%A5%A4%A5%CO%A5%F3%A5%B9%BD%E0%C8%F7&file=2016%2DCIS%2D2%2D20160402%2D1000%2Eppt&action=ATTACH 	
<p>②幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。</p>	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p>
<p>(～400 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>現状ではほぼ達成されているが、引き続き、HOSEI2030 に示される大学のミッション・ビジョンに基づく検討を行う方針である。例えば、2015 年度からの新カリキュラムでは、卒業所要単位に、外国語科目 10 単位、教養科目 10 単位の履修が必要とされている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学学則 第 17 条 11-1、 11-2 	
<p>2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p>	
<p>①学生の能力育成のための教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。</p>	<p><input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p>
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>2015 年度カリキュラムから、より基礎教育に重点を置いた教育課程になっている。学士力を担保するために、座学による講義に加えて、演習科目を多く配置し、問題を解きながら学べる科目構成を導入した。また、数理実験を新たに導入し、実験をとおして、グループとしての問題解決方法の指導を行うと共に、ものを考え、それをレポートにまとめる能力の育成をはかっている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学学則 情報科学部設置科目 	
<p>②初年次教育、キャリア教育は適切に提供されていますか。</p>	<p><input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C</p>
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている初年次教育、キャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育には、数学・物理系の基礎科目を設置すると同時に、情報科学の基礎科目として、情報科学入門、コンピュータシステム入門 1/2、プログラミング入門を設置している。キャリア教育としては、3 年次にインターンシップを開講し、企業での夏のインターンシップ参加を推奨している。資格取得に向けては、情報処理技術者試験の受験を推奨し、集中講義による教育を実践している。TOEIC も年 2 回の受験を行い、英語力の定着を目指している。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学学則 情報科学部設置科目 	
<p>③学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。</p>	<p>A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C</p>
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>卒業所要単位の外国語科目 10 単位に加え、情報科学リテラシの科目において、英語教科書で学ぶ数学科目を設置している。また、情報科学特講では、英語論文を読むことを推奨し、その論文内容の発表会を開催している。</p>	

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学学則 情報科学部設置科目

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・2015 年度の新カリキュラムの完成年度を目標に、具体的な教育指導内容の充実をはかる。
- ・カリキュラム完成年度に向けて、カリキュラムの評価を行い、次のカリキュラム改革に向けた議論を開始する。

【この基準の大学評価】

情報科学部では適切なカリキュラム体系が確保されている。学問体系として変化の少ない基礎部分と技術進化に応じて急激に変化する部分とを分け、ACM や情報処理学会の標準カリキュラムに基づいたカリキュラム設計を行っており、高く評価できる。特に英語力の涵養に力点があり、達成されているといえる。

カリキュラムは学問体系として変化の少ない基盤部分と技術の進歩に応じて急激に変化する部分とに分けて編成されている。当該分野に必要とされる教育内容が適切に提供されている。

初年次教育としては、分野に応じた基礎科目や入門科目が適切に配置されている。キャリア教育については、インターンシップや資格取得が推奨され、それぞれサポートが行われている。

また、英語教育に重点を置くことにより、学生の国際性の涵養が図られている。特に、英語教科書で学ぶ数学科目が設置されていることは、英語力を身に付けさせる取り組みとして評価できる。

なお、新しいプログラミング言語への対応も、情報科学プロジェクトあるいは教育 GP で導入したリクエスト集中講義で対応するなど、適切な対応がとられており、評価できる。

3 教育方法

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

A B C

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・入学時に数学の placement test を実施し、到達度による科目選択を指導している。
- ・英語は入学時の TOEIC を placement test として活用し、到達度別クラスを編成している。
- ・学科を横断したコース制を導入し、将来の職業をイメージしてコースを選択させ、コースごとに履修モデルを提示し指導している。
- ・基礎科目の学び直しの仕組みを検討している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・数学 placement、英語 TOEIC の成績評価及び分析資料
- ・2016 年度 2 年生ガイダンス資料 (コース制コースマップ)

<https://cis.k.hosei.ac.jp/faculty/wiki.cgi?page=2016%BD%D5%B4%FC%A5%AC%A5%A4%A5%CO%A5%F3%A5%B9%BD%E0%8%F7&file=2016%2DCIS%2D2%2D20160402%2D1000%2Eppt&action=ATTACH>

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

A B C

(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

各科目において、授業時間外の学習時間が適切に確保できるよう課題を調整している。また、教員のオフィスアワーを GBC(Glass Box Office Hour Center)に集約し、Student Assistant と共に、学習支援を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・GBC ホームページ <http://cis.k.hosei.ac.jp/gp/gbc/>

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。 授業改善アンケートの結果を振り返り、各科目の授業外学習の時間の到達度を把握し、授業外学習の短い科目については、次年度以降に課題量を調整するなどの措置を行っている。また、GBCにて、授業外学習の支援を行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・GBCホームページ http://cis.k.hosei.ac.jp/gp/gbc/</p>	
④教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組んでいますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PBL、アクティブラーニング形式の授業はすでに複数行われているが、さらに拡大するために教室施設の改良を行った。 ・学生のリクエストによって開講する「リクエスト集中講義」科目があり、夏季休業、春期休業を中心に開講している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・リクエスト集中講義ホームページ http://cis.k.hosei.ac.jp/gp/request/</p>	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質保証委員会が全教員分を閲覧しチェックしている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・第301回教授会議事録</p>	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケートにて確認している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・第308回教授会議事録「2015年度授業改善アンケート情報開示請求」</p>	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
<p>【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎科目の成績分布と後続科目での前提知識の定着度の関連を教授会で議論している。この結果、単位認定と先修条件の分離を決定し、後続科目を履修するための学び直し科目を設定した。この適切性の検証は2、3年後に行われる予定である。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・履修ガイド p.16「学び直し科目」</p>	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。 基準を設け実施している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし</p>	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。 厳格な評価がスムーズに行えるよう、科目ごとの教員裁量による成績評価だけでなく科目横断的な総合判断も行っている。基礎科目群においては単位認定と成績評価を分離し、厳格な評価を実施している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・履修ガイド p.16「学び直し科目」</p>	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①教育成果の検証を学部（学科）ごとに定期的に行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C
<p>【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の進級判定にあたって、成績分布、単位取得状況の分析を必要に応じて行っている。 ・単位取得数が少ない学生とは、保護者を含めた面談を行い、状況の確認を行っている。 	

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・成績不振者向け保護者面談会の案内	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
【利用方法】 ※箇条書きで記入。 ・授業改善アンケートの結果を、データで入手し、学部教授会内で共有し、分析を行っている。 ・全教員のデータを全教授会メンバーが閲覧できるようにしている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・第 308 回教授会議事録「2015 年度授業改善アンケート情報開示請求」	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・2015 年度にカリキュラム改革を行い、単位認定と先修条件の分離を行った。これに伴う「学び直し科目」の実際の実施が 2016 年度に行われるため、学生の学習達成度の効果について分析を行う。

【この基準の大学評価】

<p>情報科学部の履修指導については、学生のコースの選定に際してきめ細かい指導がされている。コースマップを作成し、学生に周知している点は評価できる。学習指導については、入学時にプレースメントテストを実施し、成績に基づいて科目選択の指導をしている。各科目において、授業時間外の学習が適切に確保できるよう課題を調整している。GBC オフィスアワーの設定など学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策が行われており、評価できる。また、教育上の目的を達成するため、新たな授業形態の導入に取り組まれている。</p> <p>シラバスが適切に作成されているかおよび授業がシラバスに沿って行われているかについては、質保証委員会が確認を行っている。</p> <p>成績評価と単位認定の適切性については教授会で確認されている。複数クラスの授業について、クラス横断的な統一基準を作成して、成績評価と単位認定を行っている。さらに基礎科目については、基礎的事項の学習度により単位認定し、応用的な部分で成績評価しており、こうした方法は高く評価できる。</p> <p>教育成果の検証は成績分布と単位取得状況の分析により行われている。また、学生による授業改善アンケート結果は教授会全体で共有され組織的に利用されている。</p>
--

4 成果

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<p>【学位授与方針】</p> <p>「ものづくりから概念づくりへ」を標語にして情報科学部は設立された。本格化する情報社会においては、新しく生まれる応用領域において必要となる新しい概念を生み出す人材、知的生産の担い手が不可欠となる。こうした社会的な要求に応えるため、コンピュータ科学を基盤とする知識体系の獲得、現実世界の現象や人々の行動を分析しモデル化（抽象化）する能力の獲得、サイバー世界の情報を処理・加工し目に見える形で表現・発信する能力の獲得、これらに加えて、国際人としての英語によるコミュニケーション能力と一般教養および職業倫理の獲得を学位授与の条件とする。具体的には、学生が 4 年間で習得すべき学習成果として</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータ科学の体系の理解 2. ネットワーク社会で活躍するのに必要なマナーと倫理の習得 3. 現実社会における現象の抽象化とそのプログラミング技能の習得 4. サイバー世界の理解と構築力の習得 5. 英語も含めたコミュニケーション力の習得
--

が挙げられる。

これらの教育過程において、所定の単位を修めた学生に学位を授与する。

4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。

①学生の学習成果を測定していますか。

A B C

(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入 (習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等)。

基礎科目群では Mastery Tests を実施している。必修科目の英語では TOEIC の受験を単に認定の前提条件とし、全学生の TOEIC の成績を成果測定に利用している。学会発表での表彰件数、情報処理技術者試験の合格者数も指標としている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ TOEIC 受検結果、学会発表一覧、等

②成績分布、進級などの状況を学部 (学科) 単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】 ※箇条書きで記入。

- ・ GPA の分布、単位取得状況、授業への出席状況など、学生の詳細なデータで把握して分析し、教授会で情報共有している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 単位取得状況資料、授業出席率資料など

③学習成果を可視化していますか。

A B C

【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入 (取組例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等)。

- ・ 2015 年度までポートフォリオを利用して、学生に TOEIC、GPA の分布を公開してきた。2016 年度から、システムを変更して、公開する予定である。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ ポートフォリオ <https://cis.k.hosei.ac.jp/portfolio/>

4.2 学位授与 (卒業・修了認定) は適切に行われているか。

①学生の就職・進学状況を学部 (学科) 単位で把握していますか。

はい いいえ

【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】 ※箇条書きで記入。

- ・ 教授会にて、学生の就職状況・進学状況を報告している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ 第 299 回教授会議事録「進路状況」

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※ (1) ～ (2) の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

- ・ 新カリキュラム導入による学生の単位取得、成績分布の変化に関する分析調査を進める。

【この基準の大学評価】

情報科学部では、Mastery Test の実施により学習成果の測定を行っている。TOEIC の成績、学会発表での表彰件数、情報処理技術者試験の合格数を学習成果の指標としている点は評価できる。上記指標を統計的に処理し、教授会で情報共有しており、適切である。

学生に対しては、将来目標の実現をサポートするポートフォリオで GPA、TOEIC 得点、学内順位を確認できるようにしており、学習成果が可視化されている。

就職・進学状況については、就職担当教員を設置し適切に把握されている。

5 学生の受け入れ

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【学生の受け入れ方針】

本学部は、現代社会を支える重要な学問分野である情報科学を礎とした高度な情報技術の教育・研究により、これからの社会の様々な分野で活躍する人材を育成する。そのためには情報科学分野の知識の習得のみに注力するのではなく、各々の専門分野で問題を自ら発見する力、その問題に対する解決策を論理的創造的に考察する力、見いだした解決策の実現に向けて積極的に行動する力を総合的に伸ばすことが必要となる。本学部では、多様な学生が場を同じくして学び成長することでこれらの力を身につけていくことが重要かつ効果的であると考え、学力を重視した入学経路、主体性を重視した入学経路、国際性を重視した入学経路と幅広く学生の受け入れ経路を用意している。具体的には、一般入試A方式、統一日程(T日程)入試、大学入試センター試験利用入試、指定校推薦入試、公募推薦入試、付属校推薦入試、外国人留学生入試、スポーツに優れたものの特別推薦入試により入学者の選抜を行う。コンピュータ・ネットワーク・メディア処理といった情報社会の核となる技術に興味があり、それらを使って新しいものを創造し、社会の役に立ちたいと考えている学生が入学することを期待している。

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

① 定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。 はい いいえ

(~200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

過去の入学状況の分析結果に基づき、入試査定を行い、適切な入学定員となるよう管理している。2016年度入試では2次、3次合格者を出して、入学者数の確保を図った。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・下記の定員充足率参照

定員充足率 (2011~2015年度)

(各年度5月1日現在)

種別\年度	2011	2012	2013	2014	2015	5年平均
入学定員	150名	150名	156名	156名	156名	
入学者数	153名	161名	173名	148名	156名	
入学定員充足率	1.02	1.07	1.11	0.95	1.00	1.03
収容定員	600名	600名	606名	612名	618名	
在籍学生数	694名	669名	677名	660名	656名	
収容定員充足率	1.16	1.12	1.12	1.08	1.06	1.11

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

① 学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。 A B C

【検証体制および検証方法】 ※箇条書きで記入。

- ・入学経路ごとに入学後の成績の追跡調査を行っている。
- ・入学後の成績調査結果に基づき、指定校の入れ替えや条件変更を適切に行っている。
- ・新規に公募推薦を導入し、受験者と指定校の関係の見直しを検討している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・第309回教授会議事録「指定校推薦」

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)~(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・2016年度入試から、公募推薦入試、英語外部試験利用入試などを新規に実施した。今後、公募推薦の入試経路の学生の

成績調査を進める。

【この基準の大学評価】

情報科学部の入学定員の超過・未充足については、過去の入学手続き実績をもとに査定しているため、適切な入学者数を維持している。

学生募集および入学者選抜については、入試経路ごとの成績の追跡調査をもとに指定校との関係を定期的に見直したり、新たに公募推薦を導入するなど絶えず検証が行われている点は評価できる。

6 学生支援

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。 はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

・年度末に、全学生の卒業・卒業保留・留年者を学年別や入学年度別に把握している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・第306回教授会議事録「2015年度進級、卒業判定及び卒業再試験該当者について」

①成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。 A B C

【成績不振学生への対応体制および対応内容】※箇条書きで記入。

・春・秋の学期末に、留年生あるいは留年の可能性のある修得単位数の少ない学生を調査して、保護者相談会を実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・第306回教授会議事録「2015年度秋学期成績不振者相談会の対象者基準」

②学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。 A B C

(～400字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。

入学時に面談を行い、履修指導などの修学支援が必要か否かを確認している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・第307回教授会議事録「2016年度新入生対応」

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・成績不振学生として、毎年名前が挙がる学生について、適切な指導を行う。
- ・新入生の時点で担任面談を通して、問題を抱える学生を早期に抽出し、適切な指導を行う。

【この基準の大学評価】

情報科学部の卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況は学部（学科）単位で把握されている。

成績が不振な学生に対し、保護者を交えた面談が執行部3～5名の教員によって実施され、適切に対応されている。最近ではメンタルのトラブルもあり、GBCに常駐している臨床心理士にも面談に同席してもらうなど、手厚い対応となっており、評価できる。

外国人留学生への修学支援については、英語での授業実施、日本語教育の実施等により適切に対応されている。

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

① 質保証委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2015年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

・ 質保証委員会は、年度末の自己点検時に開催した。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・ 特になし	

【この基準の大学評価】

情報科学部では昨年度までは学部執行部が質保証委員会を兼ねており、効率が重視していたが、今年度からは体制を変え、執行部とは別に質保証委員会を設置し、年に何回か学部運営に関して検討してもらうことに変更された。今後の質保証委員会の活動と提言に期待したい。

【大学評価総評】

情報科学部は理念・目的に「技術基盤を確立した人材の育成」を掲げており、その一環として 2015 年度より新しいコース制を導入した。それぞれのコースに必修・選択必修科目を設けて、修得の積み上げによって体系的な技術基盤を築こうとする試みであり、積極的に評価できる。

FD 活動としてはグループワーク講義模擬授業の全教員による体験、担当科目 1 科目のビデオ撮影およびその内外評価のフィードバックを実施しており、高く評価できる。

この他にも、学習から学生生活までをサポートする GBC の運営、キャリアデザイン・学習計画・学生生活を一括管理するポートフォリオの導入、個々の学生と担当教員がポートフォリオを通じてキャリア形成にあたる仕組みの導入、情報科学部用各種サーバーなどを管理する有志学生チーム RAT を通じた自主性とチームワークの養成など、多岐に渡った独自の取り組みが精力的になされており、評価できる。

情報科学部における 2015 年度大学評価委員会の評価結果への対応については、「質保証委員会の学部における役割とその活動についての詳細な記述が望まれる」との指摘を受けているものの、自己点検・評価シートには詳細な記述が依然としてない状況であり、改善が望まれるが、ヒアリングでの確認では、執行部とは別に質保証委員会を設置し、年に何回か学部運営に関して検討してもらうことに変更されたとのことであるので、今後の活動と提言に期待したい。